

シロイチモジヨトウ

生態と防除対策



- ねぎ
 - キャベツなどのあぶらな科野菜
 - きく、けいとうなどの花き類
 - なす、きゅうりなどの果菜類
- を加害する広食性の害虫です。

昭和50年代後半に鹿児島県や高知県のねぎで問題となり始め、その後、全国に拡散し大発生しました。一旦、平成の初め頃に減少しましたが、近年、西日本を中心に再び多発しています。

シロイチモジヨトウとは

卵

- 雌は数十～数百粒からなる卵塊を数回に分けて、一頭当たり平均1,000粒産卵する。卵塊は黄白～灰白色の鱗毛で覆われている。卵は直径約0.4mmの球形。

幼虫

- 側面に白線があり、老齢幼虫では30mm程度になる。夜間に食害する。体色は、若齢幼虫は淡緑色。中齢以降になると淡緑色、緑褐色、暗褐色と同じ種類とは思えないほど変異に富む。密度が高いと体色が濃くなる。



鱗毛で覆われた卵塊

((地独) 大阪府立環境農林水産総合研究所提供)



側面に白線がある幼虫

蛹

- 5齢を経て土中で蛹になり、25℃では9日ほどで羽化する。

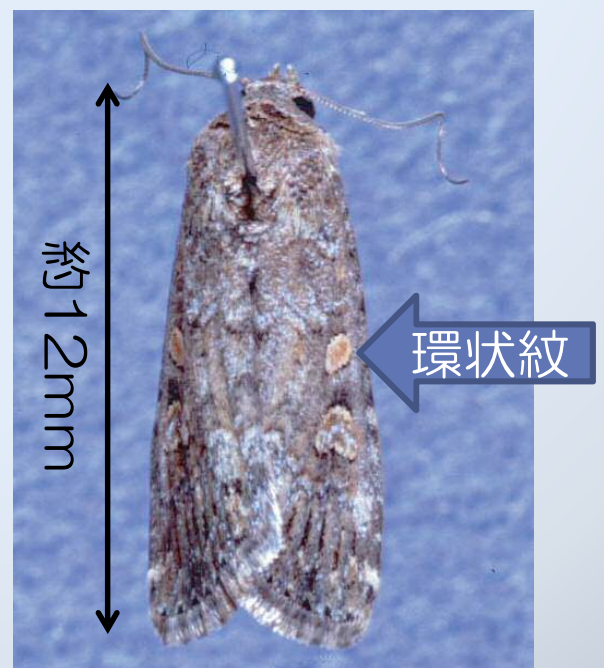
成虫

- 体長約12mm、翅開帳時は約30mm。前翅は灰褐色で黄褐色の環状紋がある。夜間に活動し、長距離移動する。昼間は葉裏や雑草に潜む。



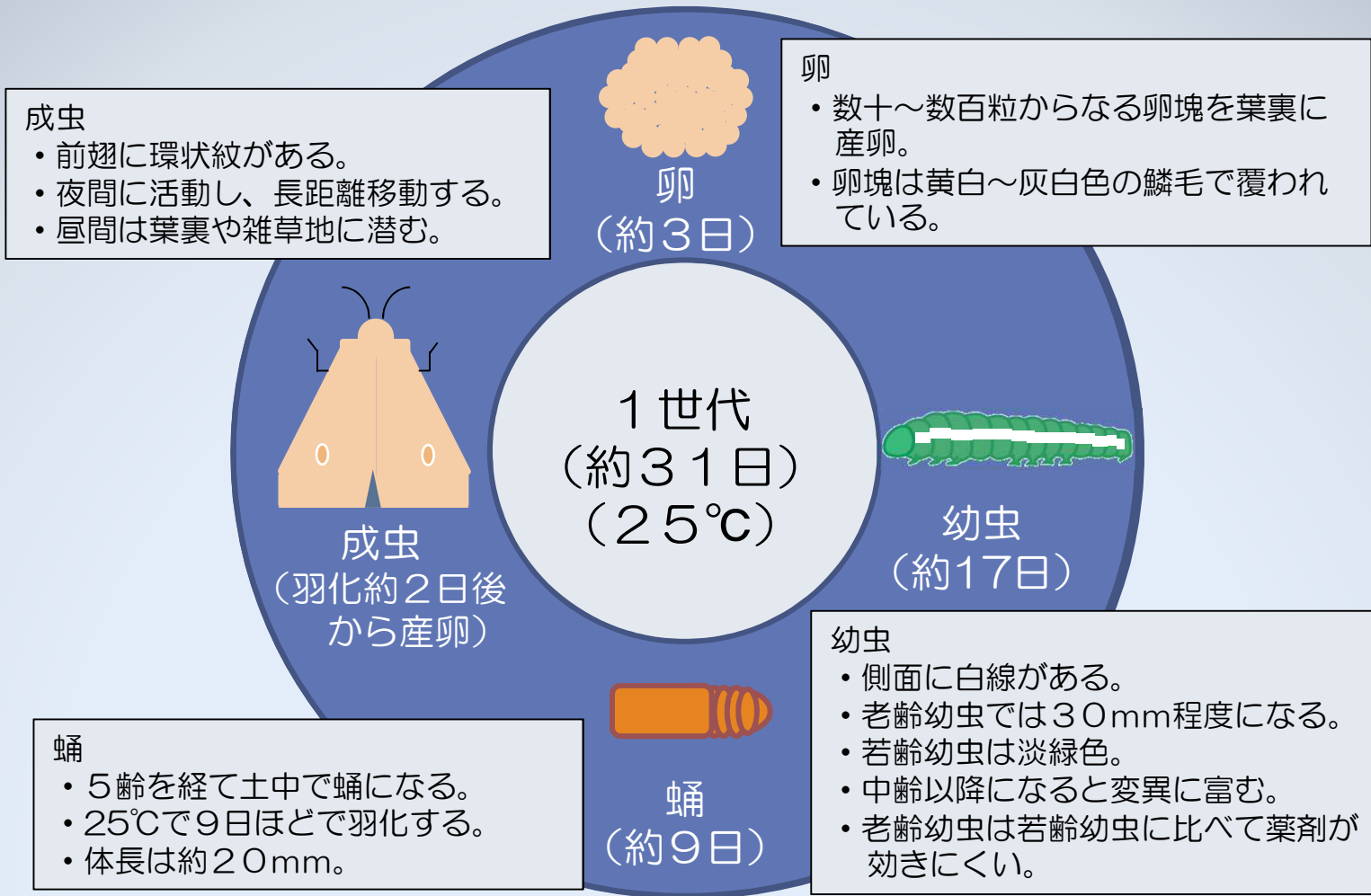
蛹

(京都府農林水産技術センター提供)

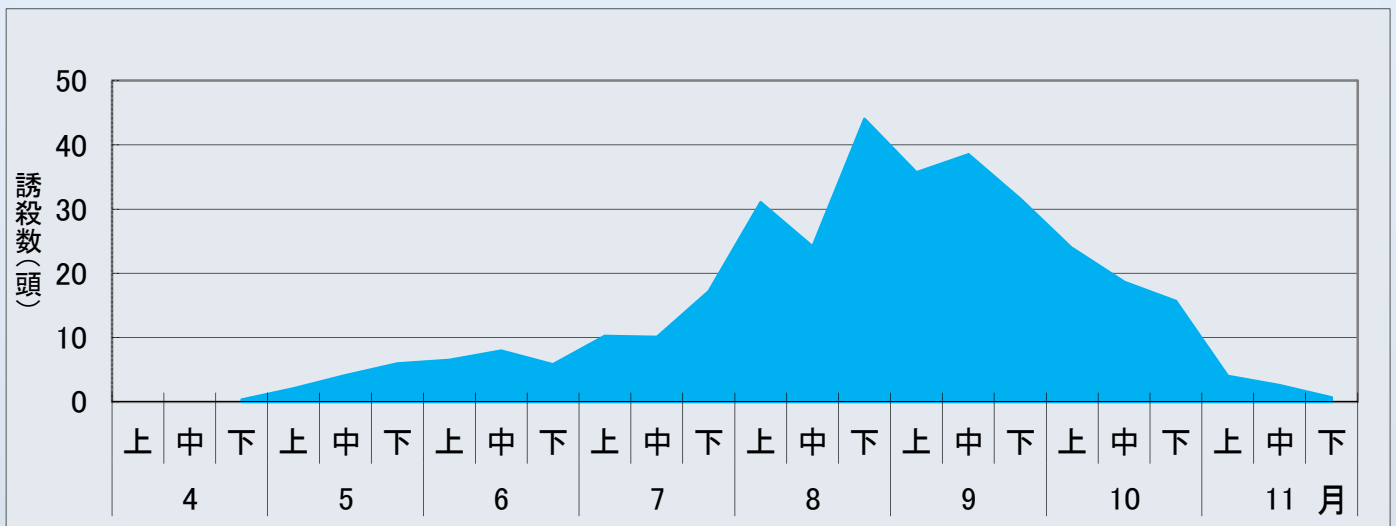


環状紋のある成虫

一般的な生活環



発生消長



フェロモントラップによるシロイチモジヨトウ雄成虫の誘殺消長
(大阪府羽曳野市、平成21～30年の平均値)

- 4月下旬から発生し、7月中旬以降に急増し、8月下旬にピークを迎える。その後、11月下旬まで発生する。
- 近年、早春からの発生が懸念されている。
- 年間の世代数は4～6世代。

防除対策

○侵入・産卵防止

- ・ハウス栽培では、開口部を4mm目合のネットで被覆する。
- ・露地栽培では、4mm目合のネット等でべたがけ、トンネルがけを行う。
- ・ほ場を見回り、卵塊や幼虫が付着している葉は、ビニールに詰めて、ほ場外へ持ち出し、処分する。

○薬剤防除

- ・近年、薬剤に対する抵抗性が発達している。
- ・老齢幼虫は若齢幼虫に比べて薬剤が効きにくいので、若齢幼虫のうちに薬剤防除する。
- ・薬剤抵抗性の発達を防ぐため、同一系統薬剤の連用を避ける。

○その他防除

- ・被害残さが発生源となるので、放置せず、まとめてビニールで被覆し、すみやかに処分する。
- ・フェロモンディスプレイ（ヨトウコン-S）を設置し、雄と雌の交信・交尾を妨げる。但し、フェロモンディスプレイは、シロイチモジヨトウが低密度の時期から、広範囲な地域で使用する。
- ・夜行性のため、夜間に黄色蛍光灯を点灯して、行動を抑制する。



フェロモンディスプレイの設置

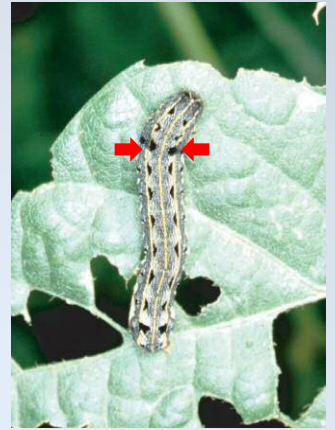


黄色蛍光灯による防除

問題になっている他のチョウ目害虫

ハスモンヨトウ

- 幼虫の頭部のやや後方に2つの黒い紋（図の矢印）がある。
- 極めて広食性で野菜類やサトイモ、大豆を加害する。
- 9～10月に発生ピークを迎える。
- シロイチモジヨトウと同じ属。
- シロイチモジヨトウに比べ、比較的固い部位を好む。
- 老齢幼虫では40mm程度になる。



ヨトウガ

- 明治時代から重要害虫として知られており、全国に分布する。
- 若齢幼虫はシャクトリムシ状に歩き成長するとイモムシ状に歩く。
- 春と秋の年2回発生する。
- キャベツなど葉菜類を好んで食害する。
- 老齢幼虫では体長50mm程度になる。

ツマジロクサヨトウ

- 令和元年に日本で初めて発生した。
- 九州を中心に全国に発生が拡大している。
- 頭部の網目模様の淡色部が逆Y字に見える。
- 飼料用トウモロコシやスイートコーン、稲、サツマイモ、野菜類など広範囲な作物を加害する。
- 老齢幼虫では体長40mm程度になる。



オオタバコガ

- ヨトウムシ類と異なり、卵を1粒ずつ産卵する。
- 幼虫の体に小さい斑点があり、そこから太い毛が生えている。
- 広範囲の作物を食害する。
- 花や新芽、果実を好み、果実に食入する。
- 8～9月に発生ピークを迎える。



防除薬剤

ネギ

薬剤名	系統 (IRAC)	希釈倍数	使用時期	本剤の使用回数
ディアナSC	スピノシン系 (5)	2,500~5,000倍	収穫前日まで	2回以内
スピノエース顆粒水和剤	スピノシン系 (5)	5,000倍	収穫3日前まで	3回以内
プレオフロアブル	その他 (UN)	1,000倍	収穫3日前まで	4回以内
コテツフロアブル	ピロール (13)	2,000倍	収穫7日前まで	2回以内
アニキ乳剤	アベルメクチン・ミルベマイシン系 (6)	1,000~2,000倍	収穫3日前まで	3回以内

野菜類

薬剤名	系統 (IRAC)	適用作物名	希釈倍数	使用時期	本剤の使用回数
ゼンターリ顆粒水和剤	BT (11A)	野菜類 (はくさいを除く)	1,000倍	発生初期 但し、収穫前日まで	—
デルフィン顆粒水和剤	BT (11A)	野菜類	1,000倍	発生初期 但し、収穫前日まで	—

花類・観葉植物

薬剤名	系統 (IRAC)	適用作物名	適用害虫名	希釈倍数	本剤の使用回数
コテツフロアブル	ピロール (13)	花き類・観葉植物	ヨトウムシ類	2,000倍	2回以内
アフーム乳剤	アベルメクチン・ミルベマイシン系 (6)	花き類・観葉植物	ヨトウムシ類	1,000倍	5回以内
ノーモルト乳剤	ベンゾイル尿素系 (IGR脱皮阻害)(15)	花き類・観葉植物	ヨトウムシ類	2,000倍	2回以内
ロムダンフロアブル	ジアシル-ヒドラジン系 (IGR脱皮促進) (18)	花き類・観葉植物	シロイチモジヨトウ	1,000倍	5回以内

フェロモンディスペンサー

薬剤名	適用作物名	使用目的	使用量	使用時期
ヨトウコン-S	シロイチモジヨトウが加害する農作物	交尾阻害	露地 100~500本 (20cmチューブ) / 10a ハウス 100m~140m (20cmチューブの場合は500~700本) / 10a	シロイチモジヨトウの発生初期~終期

問い合わせ先

環境農林水産部農政室推進課病虫害防除グループ

〒583-0862 羽曳野市尺度442
直通 072-957-0520 FAX 072-956-8711

環境農林水産部農政室推進課地産地消推進グループ

〒559-8555 大阪市住之江区南港北1-14-16 咲洲庁舎22階
代表 06-6941-0351（内線6744） FAX 06-6614-0913

北部農と緑の総合事務所 農の普及課

〒567-0034 茨木市中穂積1-3-43 三島府民Cビル内
代表 072-627-1121 FAX 072-623-4321

中部農と緑の総合事務所 農の普及課

〒581-0005 八尾市荘内町2-1-36 中河内府民Cビル内
代表 072-994-1515 FAX 072-991-8281

南河内農と緑の総合事務所 農の普及課

〒584-0031 富田林市寿町2-6-1 南河内府民Cビル内
代表 0721-25-1131 FAX 0721-25-0425

泉州農と緑の総合事務所 農の普及課

〒596-0076 岸和田市野田町3-13-2 泉南府民Cビル内
代表 072-439-3601 FAX 072-438-2069



環境農林水産部農政室推進課病虫害防除グループ

〒583-0862 羽曳野市尺度442

TEL 072-957-0520 FAX 072-956-8711

Email byogaichu@sbox.pref.osaka.lg.jp